

野原 雅也 (福井/103期)

ウィナーズカップ①④②④着の動きは力強かったし、4月武雄記念の決勝は松浦悠、郡司浩、深谷知、山田英らの強豪相手に3着と好走した。スピードの切れの良さは相変わらずだし、踏める距離も伸びた感がある。



守澤 太志 (秋田/96期)

昨年の12月あたりから伸びが良くなり、今年はF1戦ながら早くも2Vを達成。1月大宮記念、3月松山記念はオール連対で決勝進出、ウィナーズカップは②③②②着などG戦線でも快走を演じている。



皿屋 豊 (三重/111期)

まだS級で優勝経験はないものの、F1戦はコンスタントに決勝に乗っているし、3月玉野記念では1①⑧②着と3連対の大活躍を演じている。機動力は一級品で、トップクラス相手にどこまで通用するか注目したい。

全プロ記念競輪 特選・選抜戦 展望

翌日に開催される予定だった「第67回全日本プロ選手権自転車競技大会」の出場選手に出走権が与えられる大会だけに、初日特選、選抜を走る選手は2班も多いし、若手機動型も目について普段のビッグレースとは一味違う。また、初日の優秀戦を走る選手とは2日目も一緒に走らない勝ち上がりシステムになっているので、勢いで連勝する選手も少なくない。

まずは推奨に挙げた以外の機動型からみていきたい。山崎芳仁、古性優作、稲毛健太、稲垣裕之、松岡健介、山田久徳、太田竜馬、小川真太郎、竹内雄作、金子貴志、和田真久留、根田空史らは大舞台の経験も豊富な実力者。4月以降は全くレースを走れていない選手も多い中、比較的順調なのが山崎だ。4月は小倉、武雄記念、5月も直前の川崎を走り、武雄記念を含めて全て決勝に乗るなど結果を出している。まだまだ自力で走っても強く、かみ合えば連勝も期待出来る。層の厚さなら近畿勢だ。古性は優勝したウィナーズカップ以来の実戦。ここでは格上の存在で、切れのあるタテ攻撃を決め



松本貴治

折り紙付き。やはり軽視するわけにはいかない。

注目の機動型新戦力では、ヤンググランプリ覇者の松本貴治、野口裕史、佐々木豪に、嵯峨昇喜郎、森田優弥、黒沢征治、小林泰生、植原琢也の113期5人が旋風を巻き起こせるか。1月平記念の3勝から快進撃が続く佐々木、全日本選抜、ウィナーズカップでそれぞれ2連対の松本とさすがに中四国勢はそろって

昇のきっかけをつかみたい思いは一緒だろう。追い込み型では、岡村潤、中村浩士、内藤秀久、稲川翔、東口善朋、南修二、香川雄介らが1着候補。3月松山記念を1①④①着、ウィナーズカップを2①④①着とタテヨコの動き申し分ない稲川、今年は2カ月あまりしか走っていないのに10勝をマークしている香川の2人は目標にも事欠かないだけに特に警戒したいところだ。

最後に穴で注目選手を。自力では坂本貴史、雨谷一樹、堀内俊介、島川将貴、林慶次郎、山田庸平、自在タイプでは佐藤友和、山賀雅仁、小原太樹、畑段風士、追い込み型では大槻寛徳、佐々木雄一、武藤龍生、池田良あたりの名前が挙げられよう。



古性優作

て連日主役を務めよう。他も好調な稲毛を筆頭に見逃せない選手ばかり。勢いある中四国勢からは太田のデキが気になる。落車の影響で波のある戦績だっただけに、2カ月の欠場期間で万全の状態に仕上がっていれば、強烈ダッシュ、スピードで他を圧倒しそうだ。F1戦で優勝続きと本来の先行力が戻ってきた竹内雄作、地元ホームの金子貴志らの中部勢も軽視は禁物だ。竹内は自分の形に持ち込むとさすがの粘りを発揮しているし、勝つべきレースでしっかり勝っている金子は自力も健在で、目標手薄なところは狙い澄ました一発が飛び出すか。南関の機動型はモロさも同居するが、自分の形に持ち込むんだ時の破壊力は



岡村潤

いる。両者に、今年に入って1着ラッシュの取島雄吾らも呼応して地区の勢いを見せ付けそう。115期の選手や注目ルーキーの寺崎浩平が続々S級に特進してきて結果を出してきているので、113期勢もここで存在感を發揮したい。いずれの選手も落車に、レース間隔も空いて調子が読みづらい状況だが、ここで上

好調をアピールするのは？